



「伴走から学びつづける夢支援」 特定非営利活動法人 いわき FP・e-らいふ

理事長 大川 幸子



理事 諸橋 美紀子



「NPO 法人いわき FP・e-らいふ」は、2005 年に設立し、金銭教育、社会保険の啓蒙、青少年育成を通じた地域住民の豊かな生活を目標に、ファイナンシャル・プランナー（以後 FP）を中心としたメンバーで活動しています。

ゆうちょ財団様との出会いは 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の頃になります。震災後当法人は、いわき市の津波や地震による被災者と多くの原発事故避難者に対し、何か力になれないかと大変模索していました。東京在住の FP 仲間から、ゆうちょ財団様の金融相談等活動助成事

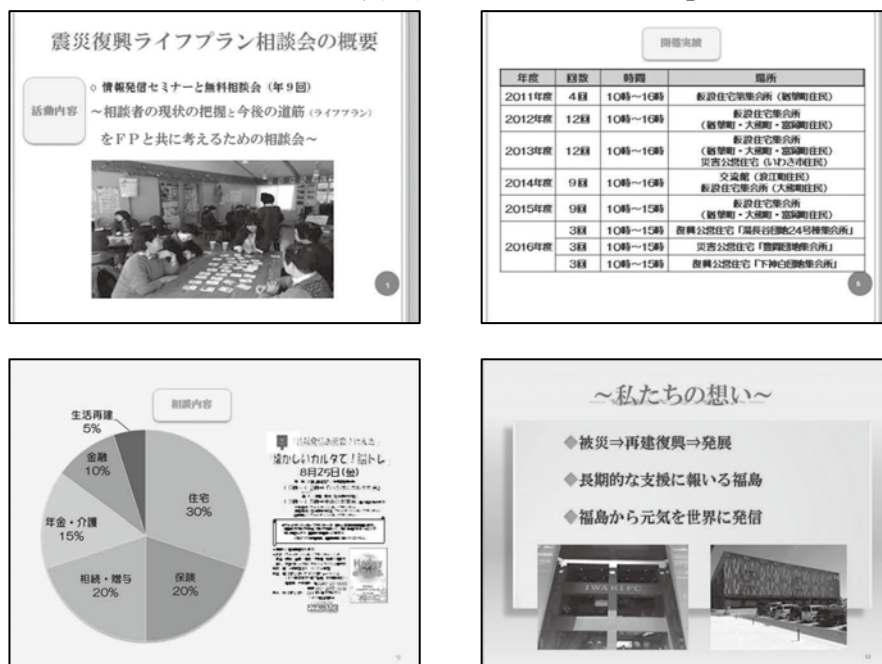
業のスタートを教えてください説明会へ参加。

その後、助成活動に採用され、震災から 9 ヶ月が経過した 12 月より仮設住宅集会所にて『震災復興ライフプラン相談会』を開催することができました。

相談会で心掛けていたことは、とにかく相談者の話をしっかりと傾聴し、そこから未来に希望が見出せる道筋を一緒に考えることでした。

また、話しやすい環境を整えるために、一緒に昼食を作り、食べ、会話し、少しずつ信頼関係を深める努力をしました。

図表 1 『震災復興ライフプラン相談会』



災害が発生すると、時間の経過とともに被災者の必要なものが変化します。初期の段階では、水や食料や安全な場所の確保、次に衣類、日用品。それらが落ち着くと、再建のための資金が必要になります。活動を続けていく中で、再建をどのように始めて良いのか戸惑っている被災者の相談に対応し、一緒に道筋を模索できる信頼関係を構築することができました。

地震や津波による被災者には、国や地方自治体の再建支援制度の申請などを中心に、損害判定により対象となる制度をできるだけ利用して再建をすることや、今後のライフプランの立て直しを計るアドバイスをおこないました。原発事故避難者からは、「元の住居へ帰れない」「三世同居だったがバラバラになってしまった」「賠償金により、お金の使い方が変わってしまった」など、個人がおかれている状況によって様々な内容の相談がありました。現在は帰還も進み始め、住まいの拠点をいわき市に置いている方も多数います。

活動実績は、2011年から5年間は様々な仮設住宅の集会所にて46回、2016年から2年間は災害公営住宅にて18回の相談会を開催することができました。

震災復興の相談も落ち着いた2018年より、新たな助成活動の取り組みとして、児童養護施設の生徒向けに『お金のセミナー』を開催しました。きっかけは児童養護施設の施設長から、「生徒たちが高校を卒業し施設を離れ、社会生活を送るためのお金と基本的な知識を身に付けさせたい。また、金銭的な問題で進学をあきらめている生徒がほとんどで何とかしたい」との要望がありました。この施設では、両親との死別、親の病气、親からの虐待など、様々な事情によって親やきょうだいと一緒に生活できない生徒たちが暮らしています。高校を卒業すると、施設を退所し1

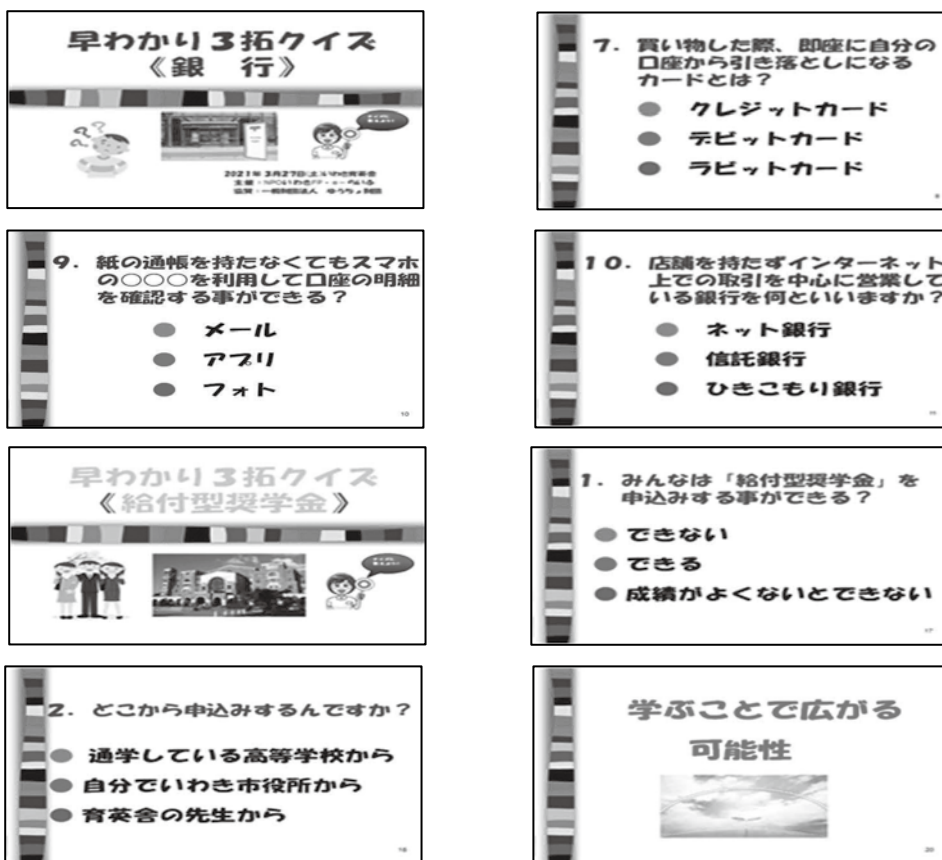
人で自立して生活をしなければなりません。

最初に取り組んだのは、中学生と高校生に1人暮らしの収支について具体的な数字を用いながら実際に現金のやり取りをおこない、手取りで生活する体験をしました。その中で、社会人として計画性を持って住まいや自動車を選択することの大切さを学ぶ機会となりました。また、毎回必ず給付型の奨学金の説明をおこなった結果、「夢を持ち、進学することができるんだ」と、生徒自身が自分の人生に希望を持つことができるようになりました。しかし、高校卒業間近に安易に就職先を選ぶ生徒が多いということも問題点として挙げられたため、セミナーの中で求人票の見方、月給、賞与の他に会社選びには社会保険や寮完備等の福利厚生にも着目することを伝えました。

コロナ禍のセミナーでは、クイズ形式で「経済のしくみ」「口座の作り方」「クレジットカード」「リボ払いの怖さ」など、お金に関する問題を出題し生徒は楽しく学べるよう工夫をしました。また『目的を持って貯蓄しよう講座』では、「何年後、何のためにいくら必要か?」と各生徒に目的を聞いたところ、両親を亡くした生徒は「将来両親のお墓を建てたい!」、家族と離れ離れになっている生徒は「6年後に親やきょうだいと一緒にディズニーランドに1泊で行きたい」と夢を話してくれました。これを聞いて、私たちは施設の生徒たちが自己の力で夢を実現できるように応援したいと痛感いたしました。

毎回セミナーのあとは個別相談をおこない、生徒たちの将来の夢や、それを叶えるには今何が必要かを一緒に考え、アドバイスをしました。話を聞いていくと、生徒たちはそれぞれ、原石のようにキラリと光を放つ瞬間が多々あります。私達はそれを引き出し、伸ばして実現できるように伴走していく事に「やりがい」を感じています。

図表2 児童養護施設の生徒向け『お金のセミナー』
《レジュメの一部》



《生徒達のアンケート》

- ・ 専門学校に行きたいので、お金をたくさん貯めて勉強もきちんとしてしようと思った。
- ・ クイズ形式になっていたため最後まで楽しく学べました。
- ・ 学校ではあまり詳しく聞けない「お金の使い方」の話が聞いて良かった。
- ・ お金の稼ぎ方や、カード払いの仕方を具体的に知りたい。
- ・ 給付型奨学金について理解し、夢を叶える事ができるという事が理解できた。

この活動の成果として、施設で初めて夢に向かって大学等に進学した生徒が2020年度1名(男子)おりました。その後、2021年度は2名(男子・女子)、2022年度は2名(男子・女子)と着実に増えつつあります。

今年度の助成活動では、施設を卒業した生徒を対象に『18歳からのライフプランセミナー&相談会』を開催しました。卒業生は、地元や県外への就職組と進学組にわかれ、生活やお金のことで不安を感じても相談する親もなく、一人で悩みを抱えています。この活動では、彼らの不安を

解消し、未来に希望を抱いて成長し、自分で考え自分で判断し行動できる大人になること、そして彼らの良き相談者となることを目標としています。

東日本大震災の被災者、児童養護施設の生徒たちなど、どんなに理不尽な状況に置かれても必ず自らの力で立ち上がり、花を咲かせることができると信じて活動しています。その花を咲かせるお手伝いを、ゆうちょ財団様の金融相談活動事業の助成をいただきながら携わることができている事に、心より感謝いたしております。